

# 「記事が会話のきっかけに」

## 大分市で子ども会議



新聞を使った授業の感想を語る児童・生徒ら＝10日、大分市府内町の大分合同新聞社

志生小の永松芳恵校長(58)が進行役を務めた。会議は新聞を教材に使う教員らの自主組織「県NIE実践研究会」が毎年開いている。研究会は月1回、会合を開いている。今回は3月9日に大分市佐野の大分合同新聞社印刷センターで開く。(児屋野香純)



県内の小中学生と高校生が新聞を活用した授業について話し合う「第8回NIE子ども会議」が10日、大分市府内町の大分合同新聞社であった。

集まった5人が新聞を使った授業への感想を述べた。「記事がクラスメートのコミュニケーションのきっかけになる」「社会の動きを学べる」などの意見が出た。別府市中部中1年の村松周思さん(13)は「言葉の表現力が上がり、多角的に物事を考えることができるようになった」と話した。日本新聞協会認定のNIEアドバイザーで、臼杵市佐